

第3種郵便物認可

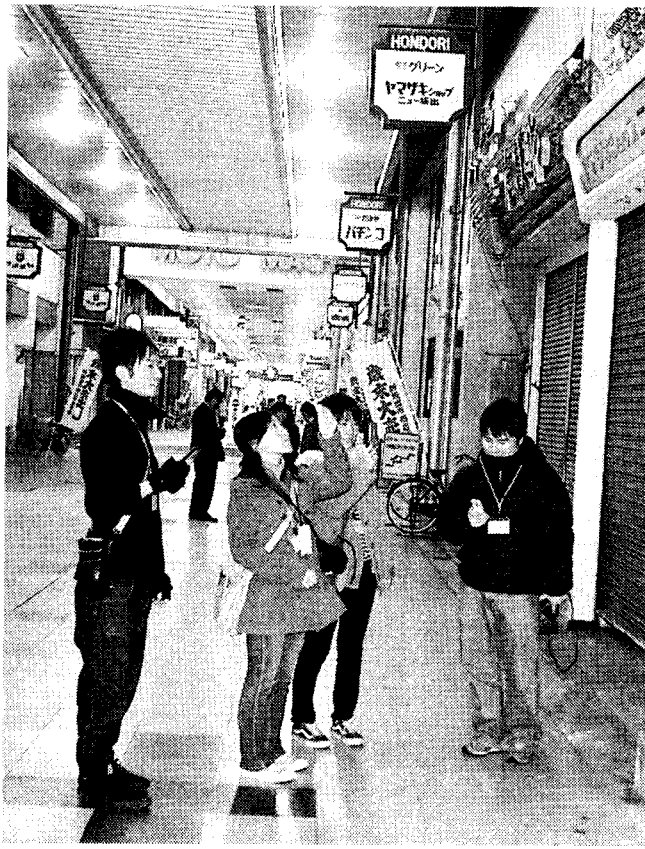
慶大ゼミ生が坂出探索

坂出市内の商店街や古い町並みなどに潜む魅力を「よそ者」の視点で見つけ出そうと慶応大学の学生が9日、市内各地を巡回した。カメラ付き携帯電話で風景や建物などを撮影。自分たちの感性でポストカードに仕上げることで、地元の人が見落としていたまちの魅力を提言する。

同市を訪れたのは、環境情報学部の加藤文俊助教のゼミで都市社会学などを学ぶ学生ら約二十人。二〇〇四年秋から柴文(東京都葛飾区)や金沢市(石川県)などで調査を行い、三回目となる坂出は、加藤助教の交友関係が縁で選定された。携帯電話と地図を手にした学生は、地元商店主の案内で、思い思いの場所を散策。道路上のオブジェや

外からの視点で まちの魅力発見

風景など撮影、ポストカードに



商店街の看板、ショーケースに並ぶ菓子などを眺める

「これ面白い」「東京では見たことがない」などと話しながらシャッターを切っていた。加藤助教は「『場』というものは人と人の相互作用があって初めて生まれる。まちを知らない学生が切り取った『面白いもの』は、地元の人にも刺激となるはず」と話している。

独自の視点でまちの魅力をカメラ付き携帯で切り取る大学生「坂出市元町上丁目

調査は十日も実施。撮影した写真は二月上旬をめぐりにカードに仕立てて商店街などで配布するほか、来年にも坂出市を訪れてフィールドワークを継続する。